



長野県難聴児支援センター

ニュースレター

平成28年
第5号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

訪問した園では、子どもたちが元気に遊んでいます。「だるまさんがころんだ!」。ピタッと止まる表情は真剣そのもの。いつの時代もこうした「伝承遊び」は子どもの心にぴったりとはまりますね。

さてこの「だるまさんがころんだ」は「10音のリズム」の心地よさを耳と体に感じることが出来ます。関西の子は「ぼんさんが尻をこいた」と遊んでいましたし、関東では「インディアンのふんどし」と言っていました。いずれも、子どもの遊には「リズムと笑い」が含まれているようですね。



「秋が深まるって ということ?」

これは、4歳の男の子が幼稚園の先生に尋ねたことばです。さて、みなさんなら何と答えるでしょう?

「秋」という言葉は知っています。「深い」ということはもプールや砂遊びの経験から何となくわかります。知らないことばはなくても、「わからないことば」に出会うのが幼児期の子どもたちですね。「こんな時、何て答えてあげたらいいのかわからない」と園の先生方もみんなで頭を悩ませたそうです。

そこでどうしたか。先生方は「秋が深まった集め」をしたそうです。「園庭の葉っぱが真っ赤になった。秋が深まったねえ〜」「サツマイモの収穫ができた。秋が深まったね〜」

「今日は車に霜が降りていたんだって。秋が深まったね〜」「リンゴの『ふじ』が出てきたよ。秋が深まったね〜」・・・。

「聞こえにくい」というと「聞こえるように」と配慮することを第一に考えます。その上で「ことばの不思議さ」と丁寧に向き合い、一緒にことばを育てていくかわりが大事なのだと感じます。「聞こえる」と「聞いている=わかる」とはちょっと違いますね。大人がちょっと意識してことばを届ける、わかりやすい状況でいろいろなことばを使ってみせる、こうしたやりとりが大切になります。

子どもたちは「小耳にはさむ」ことで言語を獲得していきます。ところが聞こえにくい子どもたちは、こうした「小耳」の情報がちょっと届きにくい。なので「ん?なに?」と思うことばにも敏感です。「ごめんね、ふたつしかないんだよ」と言ったら、その物を指さして「あるじゃん!」という子ども。うん。日本語って不思議です。単に正解を「知りたい=教える」だけではなく、ことばの面白さを子どもと一緒に味わいながら、「じゃあさあ…」と親子のやりとりが広がっていくと楽しいですね。





11月「ファミリーセミナー」開催

11月12日（土）ファミリーセミナーを開催しました。講師は、信州大学附属病院で小児難聴を主に診ている宮川麻衣子先生です。

「聴力検査結果の見方について」

「補聴器・人工内耳について」

「補聴器購入に必要な手続きについて」等何回きいても忘れてしまいそうな内容を、事例を交えながらわかりやすくお話しいただきました。



ひとくちに「きこえにくい」といっても、そのきこえ方は様々です。音の大小（dB；デシベル）

だけではなく音の高低（Hz；ヘルツ）も合わせて我が子の「オーディオグラム（聞こえの表）」を見るのが大切。そして、そこに「スピーチバナナ（会話成分の分布図）」を合わせて見ることで、子どもの聞こえにくさとともに「こうすれば（補聴器や人工内耳）、こうなる（この音が聞こえる）」という医療の実際と明日につながるエネルギーをいただきました。

「わかること」が増えると、目の前にいる我が子の未来を考える、一歩進んで積極的なかわりをめざせる、と参加した方からの感想です。

また、具体的な日々の管理「補聴器の電池について」や福祉にまつわる「手帳や補装具の申請」についてもお話しいただき、充実した時間となりました。 ※次回の予定は以下の通り



後期 第3回 ファミリーセミナーのご案内

赤ちゃんのことばを育てる学習会

- 1 日時 平成29年 1月14日（土） 15：00～16：30
- 2 場所 長野県難聴児支援センター（松本市旭町庁舎2階『多目的室』）
- 3 講師 **北野 庸子先生**（信州大学附属病院 人工内耳センター）
- 4 内容
 - ・赤ちゃんへの語りかけをたのしむ
 - ・ことばを育てるおもちゃや絵本
 - ・年齢に応じた語りかけのポイント 等
- 5 参加費 **無料**





「補聴器を水につけてしまった！」～こんな時どうする？～

「補聴器をつけたままお風呂でシャワーを浴びてしまった」
「ズボンのポケットに補聴器を入れたまま洗濯してしまった」

このようなご相談をいただきました。

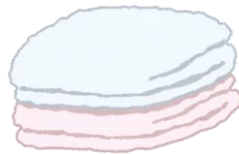
補聴器は精密機械ですので、水や湿気に非常に弱いところがあります。

細心の注意を払いながらも…体の一部として毎日使っていく中で、こうした「事故」もあります。

補聴器の専門店にみていただくのはもちろんですが、それまでの間、家でできることは？



- ①電池を抜く
- ②乾いたタオルで拭く
- ③乾燥ケースに入れる

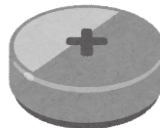


- ①電池を抜く；これは間違えて通電させてしまうことを防ぎます。慌ててしまう場面なので、うっかりスイッチを入れてショートさせてしてしまうことは、一番避けたいことです。
- ②タオルで拭く；その後の乾燥につながりますので、まずは見える水分をしっかりとふき取りましょう。乾いたタオルにくるんで振ることで、中の水分が取りやすくなることもあります。
- ③乾燥ケース；とにかく乾燥です。水没事故は避けたいことですが、できる最善の策はしっかり乾燥させること。いつも保管している乾燥ケースに入れて、一晩待ちましょう。

「使用済み電池は何ゴミ？」～こんな時どうする？～

補聴器の電池は「空気亜鉛電池」が使われています。ファミリーセミナーで宮川先生からも、「一度シールをはがすと、使わなくても少しずつ放電してしまう」というお話があり、おうちの方々がびっくりしていました。そんな「電池」ですが、交換した電池はどうすればいいでしょう？

- ①セロハンテープを貼る
- ②専用の回収箱に入れる



- ①テープを貼る；交換した電池にも、空気と触れることで電気が発生することもあります。クルンと表裏にテープを貼ることで必ず「絶縁」しましょう。
- ②専用の捨て場；ボタン電池には微量な水銀が含まれています。環境汚染を起こさないこととリサイクルを目的に回収事業を行っています。補聴器販売店や電気店、時計店に持っている専用の「ボタン電池回収缶」に入れましょう。

※詳しくは「ボタン電池回収推進センター」（電池工業会）のホームページ等を参照してください

※ボタン電池は小さいものですので、取り扱いには十分注意をしましょう！



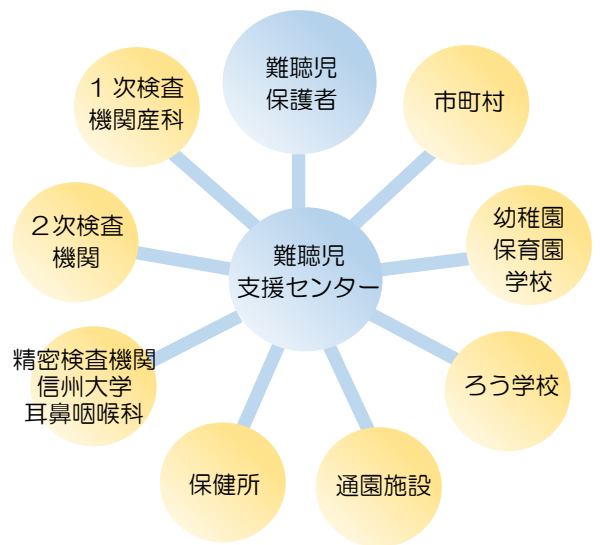
「幼稚園・保育園とのつながり」

先日、保育園幼稚園の先生方の会議に声をかけていただき、長野市役所にて「難聴児支援の実際」をお話しさせていただきました。難聴児が在籍する県内各保育園や幼稚園で実践されている「聞こえやすい配慮」「ことばを大切にしたかわり」を紹介したり、子どもがどんなことで困っているか等をお話しさせていただいたりしました。

- 聞こえにくさは見えにくい
- 「大丈夫」と思わず、注意深く見ていきたい
- どの子にも聞こえやすい環境になる

と、先生方からご意見もいただきました。

多くの方とともに、子どもを中心につながっていくことがセンターの目的です。何かございましたら、お気軽に声をかけてください。



さまざまな機関とのつながり

みみよい情報

◇電子メモパッド



ちょっとした情報を文字で確認したい、文字で伝えたい、留守中のメモを残す、子どものちょっとした落書きに…

何かと便利な電子メモパッド。液晶画面にすらすら書ける上に、ボタン1つで画面を消去できるので、何度も書き直すことができます。文具店などで購入でき、持ち運びがしやすい大きさです。

「その時その場で」「聞こえを補う」ことは、子どもの興味と語彙を広げることに役立ちます。使い方もいろいろ工夫できますね。

長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2階

支援療育員；丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

